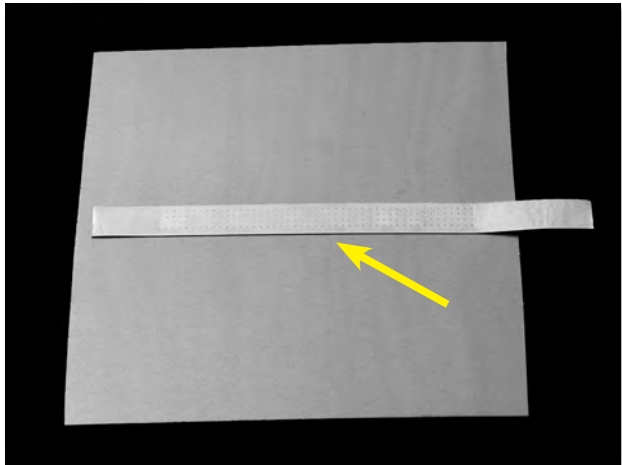
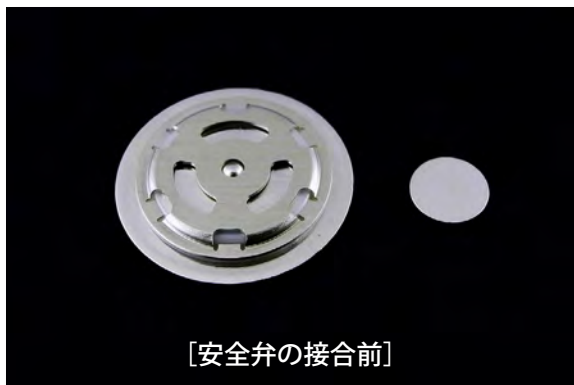


SoundBonding Application

The bonding of electrode & safety valve in LIB

〈SONY 世界初のリチウムイオン電池 / 円筒型 18650 の電極や安全弁の接合〉



1992年9月に発売された〈ハンディカム TR1〉に世界初のリチウムイオン電池が搭載されました。LIB 中の [電極] や [安全弁] のアッセンブリーに採用されたアルテクスの【金属接合技術】は 25 年後の現在でも世界のオンリーワン技術として生産に寄与しております。

「持続可能な社会を電池で実現へ」 ノーベル賞記念講演 吉野氏に大きな拍手

2019/12/10付 | 日本経済新聞 朝刊

【ストックホルム=福井健人】リチウムイオン電池の開発でノーベル化学賞を受賞する吉野彰・旭化成名誉フェローの授賞式が10日夕（日本時間11日未明）に迫った。関連行事の8日の記念講演で「持続可能な社会の実現にリチウムイオン電池が中心的な役割を果たす」と語り、大きな拍手を浴びた吉野氏。授賞式に参加する関係者は今後の活躍に期待を寄せた。

ストックホルム大学での講演後、吉野氏は記者会見した。リチウムイオン電池について「受賞で（環境問題の解決に）大きな責任を負わされた」と表情を引き締めた。

授賞式はストックホルムのコンサートホールで開かれる。参加する旭化成の小堀秀毅社長は現地で日本経済新聞の取材に応じ、「（吉野氏は）日本の産業界を引っ張っていく存在になる」と受賞後の活躍に期待を膨らませた。功績に憧れて入社した人材がイノベーションを生み出せるよう「研究者を支える環境をつくりたい」とも話した。

吉野氏の研究室に所属し、部下として材料開発に携わった同社の松岡直樹エキスパートは「電気自動車の普及などを予測していてすごい人だと感じた」と振り返った。

えんぴ服の試着時間が吉野氏と重なったといい、「（吉野氏が）家族という姿が新鮮だった」と笑った。

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

Nikkei Inc. No reproduction without permission.

SDGs





From the first PRIUS to the newest model



ハイブリッドカー